

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：主要農作物対策費

事業名【新】新酒米による産地づくり推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内4117)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,500 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内の酒造好適米は、「ひだほまれ」が9割以上を占め、県内の酒造会社から根強く支持されている。しかし、気温の高い美濃地域では品質が不安定で、東濃地域の酒造会社から「地元産の酒米を使用して日本酒を作りたい」「近年の酒の製造状況にあった高精白が可能な酒米がほしい」との声があり、中山間農業研究所中津川支所において新品種（新酒米）を育成、栽培・醸造試験を通じて産地の活性化の可能性を探ってきた。

令和4年度に実施した酒の分析や試飲評価で、一定の評価が得られており、実需者（酒造会社）のニーズにあった酒米生産を推進する必要がある。

(2) 事業内容

酒造会社の需要に見合った生産を目指すため、生産者確保や優良種子生産・種子供給体制を確立するための取組を行う研究会を開催する。

実需者が求める品質の酒米生産や生産者と実需者の結びつきを強化するため、生産者・実需者交流会を開催する。また、新酒米の品種登録出願公表後、一般消費者を対象として産地づくりの取組紹介や試飲評価を行う機会を設け、翌年度以降の需要量拡大・生産面積拡大を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県育成品種の生産拡大にかかる取組であることから県の費用負担は妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	62	
需用費	283	消耗品費、燃料費
役員費	104	通信費 等
委託料	1,023	生産者・実需者交流会、一般消費者試飲
使用料	28	高速道路利用料
合計	1,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」

(2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり

③ 水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開

(2) 国・他県の状況

「食料・農業・農村基本計画」(令和2年3月31日閣議決定)

消費者や実需者のニーズに即した施策の推進を位置づけ

(3) 後年度の財政負担

今後の財源の動向：一般財源

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

県育成品種に関わる内容であり、県が主導して取り組むことは妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
新酒米の栽培面積を令和8年度までに18haにする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①新酒米の栽培面積	0.35ha			6ha	18ha	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。
指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %	
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。
指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %	
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。
指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない

(評価)

・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3 : 期待以上の成果あり
2 : 期待どおりの成果あり
1 : 期待どおりの成果が得られていない
0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)

・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

実需者(酒造会社)の需要に見合った生産量や品質を確保するため、取組を推進するための体制を構築する必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

酒造会社からの需要量を踏まえながら、引き続き栽培面積拡大や品質確保に取り組む必要がある。